

# 有限責任中間法人日本漢方交流会ニュース

# 金

# 匱

# No.27

編集 日本漢方交流会広報委員会  
 発行 日本漢方交流会事務局 香川県仲多度郡琴平町225 TEL 0877-58-8581 FAX0877-58-8583  
 日本漢方交流会ホームページ <http://www.kanpou.com/>

## 日本漢方交流会 会員各位

拝啓 春暖快適の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。さて、本年度の“難病・慢性病フォーラム第2回”が、いよいよ間近となりました。

この度は、聖光園細野診療所・理事長 細野八郎先生はじめ、広島漢方研究会・副会長 山崎正寿先生に多大な御協力を頂き、“アトピー”の幅広い御見識と御経験を講演して頂きます。又、会員発表は、昨年と同様「うまくいっていない例」「困っている例」を中心に討論する形式と致しますが、今回は症例発表も多くありますので、かなり活発な討論が期待されます。会員の皆様には、必ずお役に立つと思っておりますので、どうぞ奮って参加して下さいませ、宜しくお願い申し上げます。

日 時	平成 16 年 5 月 30 日 (日)	
場 所	チサンホテル新大阪 4F No. 3 AB 〒532-0011 大阪市淀川区西中島6-2-19 TEL : 06-6302-5571	
テ ー マ	アトピー	
参 加 費	¥4,000 (会員)	¥5,000 (会員外)
昼 弁 当	¥2,000 (希望者)	
懇親会費	¥3,000 (希望者)	



平成 15 年 6 月 29 日 第 1 回 難病・慢性病フォーラムの様子

\* フォーラム終了後、同ホテル内で、簡単なお食事とお飲み物を用意致します。是非参加して、講師の先生方、及び、会員の皆様方と親睦を深めて下さい。

## 申 込 み

郵便振替にて参加費、及び弁当代・懇親会費を明記合計してお振込みの上、氏名、連絡先（住所、電話、FAX）及び所属研究会を明記し、FAX にて下記までお申し込み下さい。

郵便振替 口座番号：00160-6-314431  
 口座名義： 日本漢方交流会・難病・慢性病フォーラム  
 FAX 03-3412-7499 正見堂薬局  
 申込締切 5月20日（事務処理の都合上なるべくお早めにお申し込みお願い致します）  
 問合せ TEL・FAX 082-262-1788 キクイチ薬局

## プ ロ グ ラ ム ( 予 定 )

10:00	受付開始
10:30~11:30	基調講演：アトピーの漢方的治病原則 聖光園細野診療所・理事長 細野八郎
11:30~12:15 (発表10分・討論35分)	話題提供：重症性アトピー性皮膚炎の難治験例 九州漢方研究会 加藤聡
12:15~1:15	昼食
1:15~2:15 (講演45分・質疑応答15分)	講演：アトピー性皮膚炎・症例の多様性 広島漢方研究会・副会長 山崎正寿
2:15~3:00 (発表10分・討論35分)	話題提供：アトピー性皮膚炎の漢方治療5例より 東海漢方協議会 木村勇
3:00~3:20 (発表10分・質疑応答10分)	症例発表 アトピー性皮膚炎の症例 近畿漢方研究会 富田知世子
3:20~3:35	休憩
3:35~4:15 (発表10分・質疑応答10分)	症例発表 アレルギー性皮膚炎の治療例 京都漢方研究会 中島一仁

(発表10分・質疑応答10分) アトピー性皮膚炎の症例

近畿漢方研究会 川邊隆子

4:15~5:00

話題提供:難症のある慢性湿疹・アトピー性皮膚炎  
の1例

(発表10分・討論35分)

近畿漢方研究会 西脇平士

\*昨年アドバイザーとしてお招き致しました、広中隆志先生(医師 広中内科・東洋医学研究所所長)小松新平様(栃本天海堂学術部長)板垣鋭司様(ウチダ和漢薬営業学術室長)を、今年もご招待しております。また、日本漢方交流会の臨床経験豊富な先生方もアドバイザーとして出席して下さいます。どうぞお誘い合わせの上、御参加下さい。

日本漢方交流会 企画部

## 第37回 日本漢方交流会全国学術総会 『京都大会』開催にあたって

このたび次回の大会ホスト役を京都漢方研究会が務めることになりました。

近日、医療環境が大きく変革し、漢方医薬学の分野においても改革が叫ばれている今日、薬系漢方の進むべき道標を再認識し、薬師としての臨床薬学及び実践応用等多彩な企画を検討しております。幅広い漢方医薬学に携わる人々の結集の場となるべく大会を目指しておりますので、なにとぞ多数のご質問・ご参加をお待ちしております。

大会スローガン	温故知新
大会テーマ	—薬系漢方の未来像を求めて—
日時	平成16年10月10日(日)~11日(振り替え休日)
会場	京都薬科大学『愛学ホール』
大会会頭	細野 八郎(京都漢方研究会会長)
大会委員長	吉川 雅之(京都薬科大学学生薬学教室教授)
実行委員長	宮川 喬行(京都漢方研究会理事長)
主催	中間法人 日本漢方交流会
共催	京都漢方研究会
後援	京都府薬剤師会、京都府薬種商協会、日本薬学会近畿支部

## 渡邊先生を偲んで



日中医薬研究会 関東支部  
河合 斉

忌も明け、渡邊先生は今ごろは薬師如来のお傍で私共の精進振りを見守って居られる事と思います。先生とのご縁で漢方への道を拓いて頂いたのではなければ恐らくは今日まで漢方を続けることは出来なかったと思いますし今の私もなかったと思います、それは私だけではなく先生に教えた日中の会員は皆がそう思っていることと思います。追悼文を書くことになって、あらためて渡邊先生に頂いたものの大きさ、ご恩の深さを感じています。先生の業績は日中医薬事業協同組合のホームページに目次だけですが紹介させて頂いており、手にしてご覧いただくと判りますが専門の薬学、生薬学、方技に止まらず宗教、歴史、文学、芸術、園芸、演劇など文化全般に亘り豊富な内容で各分野ともご造詣の深さは田舎者の私には驚異であり渡邊先生の大きな魅力でした、豊富な話題で毎月の研究会は本当に楽しく研究会が近づく待ち遠しかったものです、お陰で弟子の私共はどれほど知識を与えられ人生を豊かに過ごさせていただけたか判りませんしそれらを集約した著作集を遺して頂いて孫子(まごこ)に及ぶ智的資産を頂戴することが出来ました。更に先生は会員皆が豊かであるようにとの思いから協同

組合を設立し長年の先生のご経験から方技の実践に欠かす事が出来ない今では得がなくなった本物を集めて会員に提供し皆が本物の方技を実践できる道を拓いて頂き経営上でも大きな遺産を遺して頂きました。「古稀著作集」の中で上司海雲師の思い出を書いて居られますが正倉院薬物調査のご縁でお近づきを得その後の観音院学校の直門下生としてそれぞれの道で当代一流の方々にお仲間入りさせて頂いたとあり東大寺を原点とされて多くの優れた知己を得られた渡邊先生も大変お幸せな人生だったと思います、弟子として得がたいご縁を頂き渡邊先生を通じて貴重な知識を与えて頂いた私共は大変幸だったと思います。

著作集ではかなりの頁を椿に割いておられますがツバキ博士としてのご活躍をご存知の方も多と思います。先生の影響で日中の会員にも椿好きが多くわが家でも庭に出ると今はツバキが満開で中には靈鑑寺にお連れ頂いた時(男子禁制ですが渡邊先生とご一緒でしたからフリーパスでした)、枝を頂いて挿し木から大きくした木が三四本ありますし伊豆にお供した時に求めた椿も大きく育ちました。

牡丹会から引き続いての永い間のご指導でしたから色々なことを教えて頂きそれらが自分の一部のように周りの目に触れるものみんなに思い出があり渡邊先生のお言葉が心に浮かんで参ります。日中医薬研究会は発足して今年で 27 年を迎えました。普通の会では一年に 3 割位は減るものですが日中では退会する者はなく永い方はカネボウ時代を加えると 40 年近くと言う方が幾人もいます、それ程渡邊先生の魅力は大きかったのですが何より日中医薬研究会を深く愛され研究会は先生の分身のようなものでした。お姿は見えなくなっても留守を守る平常と変わりなく先生が遺された恩恵と「五箇条の規」の精神は後進に受け継がれて行くことと思います。



平成 8 年 4 月・渡邊武博士紺綬褒章受賞祝賀会にて・奥様と共に



故・渡邊武先生 椿と共に

## ▶▶ 広報担当からのお知らせ

日本漢方交流会ホームページに会員専用のページを作成しております。パスワードは kaiin でお入りください。とりあえず理事会の報告などをこのページでさせていただきます。

平成 16 年 4 月編集